

足代だんじり 秋祭り

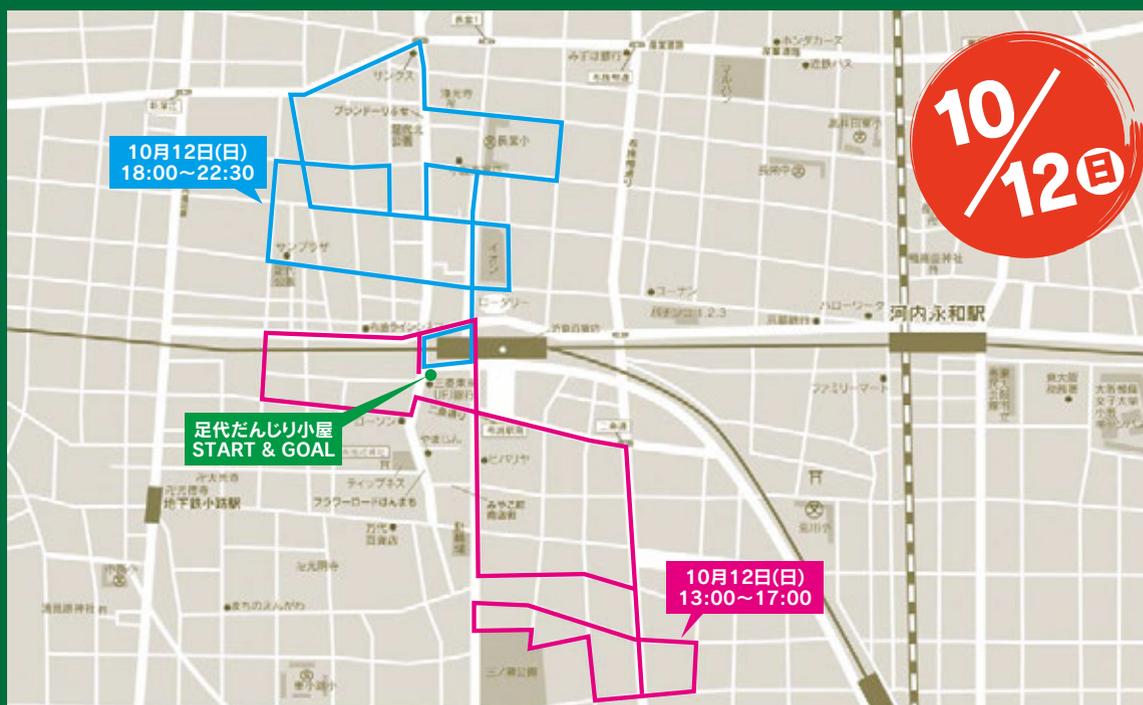
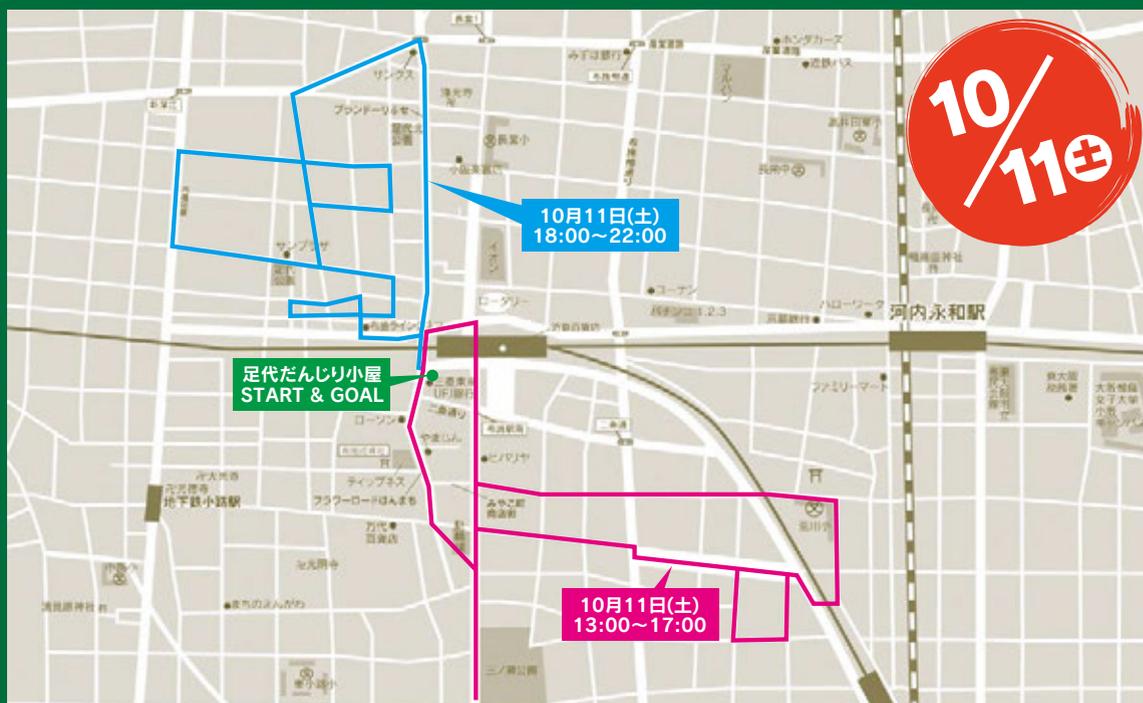
【足代の地車】

この足代地車は、数少ない柱巻出人形形式板匂欄で、彫刻の物語は大江山の鬼退治で統一されております。側面のえんかづらと呼ばれる部分には唐子遊び風な坂田金時、幼名金太郎などの彫刻正面屋根の下、車板と呼ばれます所には、布施戎社にちなんで「えべっさん」がかかげられ、またえべっさんにちなみ、多くの魚や、海老、カニなど面白い彫刻が随所に施されています。

全長4.7m、高さ3.8m、幅2.8m、重さ3450kgで、この素晴らしい地車は川井工務店の川井正勝氏により製作されました。



足代だんじり曳行地域



永和の地車(だんじり)



永和の地車(だんじり)は3年前の平成23年に新調されました。新調地車は四代目にあたりますが、初代地車については「あったと言うだけ」で詳細については不明です。二代目の地車は、背が高く安定性に欠け、曳行中にしばしば倒れたとのことでした。

この地車は、明治40年頃に太平寺に売却されました。

その後しばらく永和村に地車は無かったのですが、近隣の地車に刺激され、大正2～3年頃、大阪生野巽四条村から地車を約40円(現代換算で約4,100万円)で買入れる事になりました。

近年一時、曳行しない時期もありましたが、昭和48年より曳行を再開し、何度か修繕・大修理を繰り返し、平成22年10月まで長らく親しまれました。この三代目のだんじりは守口市大日町へ売却され、皆様に可愛がって頂ける事になりました。



平成23年は東日本大震災に見舞われた年でした。前年より新調の計画があった永和のだんじりも「こんな時だからこそ明るい話題を作っていこう」という空気に後押しされてこの年の初夏、完成をみました。大震災の年に生まれた四代目のだんじりに思いを寄せるとき、未来に向けて力強く命を紡いでいく伝統の重みを感じます。

永和地域の氏神、都留彌神社の夏祭りは7月15日・16日、秋祭りは10月15日・16日で、永和のだんじりは近年になって直前の土・日曜日に町内を曳行し15日の夜に宮入をする日程となっています。

土日の曳行は「地域子ども達に地域文化を継承していく」という永和だんじりのコンセプトによるもので、子ども達が実際にだんじりの綱を引く

体験を通じて次代のだんじり文化の継承者になってもらいたいとの願いがあります。

だんじりを曳航する技術、鳴り物、それを支える人があってはじめて「だんじり」に命が宿ります。一度技術や担い手が失われると新に興すことは大変困難です。継承することが大切です。

永和のだんじりは、保存会や青年団のメンバーも子どもの頃より親しんできた小さな町の大きな文化財であると自負しております。

